（様式第７号）　　**研修機関が公表すべき情報一覧**　　（別紙６）

（実施主体名　　三幸福祉カレッジ　）
（公開HPアドレス http://www.sanko-fukushi.com/info/index.html）

情報の種類		公表の有無	内　　容
研修機関情報	法人情報 ☆	☑	●　法人格・法人名称・住所等 株式会社日本教育クリエイト 東京都新宿区西新宿1-23-7　新宿ファーストウエスト7F
		☑	●　代表者名 代表取締役　鳥居　敏
	研修機関情報	☑	●　事業所名称・住所等 株式会社日本教育クリエイト　富山駅前教室 富山県富山市桜町1丁目1番36号　富山地鉄ビルディング5F
		☑	●　理念 【経営理念】技能教育と技能を生かす場を提供することにより、人と社会に貢献する 【教育理念】技能と心の調和
		☑	●　学則　別紙1
		☑	●　研修施設、設備 三幸福祉カレッジ　HP（ http://www.sanko-fukushi.com/）
研修事業情報	研修の概要	☑	●　対象　学則参照
		☑	●　研修のスケジュール(期間、日程、時間数)　別紙3参照
		☑	●　定員（集合研修、実習）と指導者数　学則参照
		☑	●　研修受講までの流れ（募集、申し込み）　学則参照
		☑	●　費用　学則参照
		☑	●　留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等 三幸福祉カレッジ介護職員初任者研修においては講義演習一体型の実践に役立つ講義を行ないます。 介護をしっかり学びたい皆様の積極的なご参加をお待ちしております。
	課程責任者	☑	●　課程編成責任者名 福間　真理子
	研修ｶﾘｷｭﾗﾑ	☑	●　科目別シラバス　別紙3-1参照
		☑	●　科目別担当教官名　別紙2参照
		☑	●　科目別特徴　別紙3参照
	（通信）	☑	●　科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間　別紙3参照
		☑	●　通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題　別紙1参照
	修了評価	☑	●　修了評価の方法、評価者、再履修等の基準　別紙1参照
	実習施設 （実習を行う場合）	□	●　協力実習機関の名称・住所等☆
		□	●　協力実習機関の介護保険事業の概要☆
		□	●　協力実習機関の実習担当者名
		□	●　実習プログラム内容、プログラムの特色
		□	●　実習中の指導体制・内容（振り返り、実習指導等）
		□	△　実習担当者の略歴、資格、メッセージ等
		□	●　協力実習機関における延べ実習数
講師情報		☑	●　名前　別紙4参照
		☑	●　略歴、現職、資格　別紙4参照
実績情報		☑	●　過去の研修実施回数（年度ごと） 平成28年度　6回、平成29年度　9回、平成30年度　10回 平成31（令和元）年度　8回、令和2年度　8回 令和3年度　8回、令和4年度　8回、令和5年度　6回、令和6年度　1回
		☑	●　過去の研修延べ参加人数(年度ごと) 平成28年度　45名、平成29年度　87名、平成30年度　105名 平成31（令和元）年度　62名、令和2年度　58名 令和3年度　56名、令和4年度　60名、令和5年度　44名、令和6年度　8名
連絡先等		☑	●　申し込み・資料請求先 株式会社日本教育クリエイト　名古屋支社 ℡：052-589-9321　FAX：052-589-9328
		☑	●　法人の苦情対応者名・役職・連絡先 部長　福間　真理子　052-589-9321
		☑	●　事業所の苦情対応者名・役職・連絡先 主任　堀田　忍　076-255-2231

【別紙２】

学　　則

ア　開講目的

　高齢者の増大かつ多様化するニーズに対応した適切な介護サービスを提供するため、必要な知識、技術を有する介護職員の養成を図ることを目的とする。

イ　研修事業の名称

　三幸福祉カレッジ介護職員初任者研修

ウ　実施地域、場所等

（1）自宅学習の実施地域

　自宅学習の実施地域は、富山県内とする。

（2）通学講習の実施場所

　三幸福祉カレッジHP参照　http://www.sanko-fukushi.com/

エ　研修期間

　講習開始日～8か月を研修期間とする。

オ　研修カリキュラム及び使用する教材

（1）研修カリキュラム（別紙3のとおり）

（2）使用する教材

　3訂　介護職員初任者研修テキスト　発行：一般財団法人　長寿社会開発センター

カ　講師氏名及び職名

　（別紙4のとおり）

キ　実習施設

　実習は行わないため、添付無し

ク　研修修了の認定方法及び免除科目

(1)修了の認定

講　義	演　習	修了試験
全3回の課題を全て提出。 各回100点満点中70点以上で合格。70点を下回る場合はその都度再提出とする。	全92.5時間の日程にすべて出席。欠席した場合は他の教室で振替出席とする。 また、科目番号9においては授業時に担当講師による生活支援技術の習得状況の評価を行う。 評価は下記の通りとし、C以上で評価基準を満たしたものとする。 A＝理論を理解し、一人でしっかりできている(90点以上) B＝一人でしっかりできている(80～89点) C＝ほぼできている(70～79点) D＝要再指導(70点未満)	全22問の修了試験を行い、下記評価に基づき修了認定を行う。C以上で評価基準を満たしたものと認定する。 A＝90点以上、B＝80～89点、C＝70～79点、D＝70点未満

(2)免除科目

なし

ケ　募集時期

案内は募集開始日以降

コ　受講資格

介護サービス事業に従事することを希望する者、従事することが確定している者、または既に従事している者とする。

自宅学習、通学講習が継続して取り組める心身ともに健康な方。

サ　受講定員

1クラス　20名

シ　受講手続き

1、電話・ホームページ・郵送等にて申込

2、申込者に対し教材及び受講料納入の案内を送付

万が一受講が困難となった場合、教材到着日から8日以内であればクーリングオフができる。その際、必ず教材の返却がある事。

3、受講証を発行し、これをもって受講手続きを完了とする。

ス　授業料、実習費など受講者が負担すべき費用

(1)授業料(受講生一人当たり)

授　業　料
受講料　　45,000円(税別) テキスト代含む

セ　研修欠席者に対する補講の方法、上限時間及び補講に係る費用等の取扱い

自宅学習	通学講習
自宅学習課題が基準点を下回る場合は再度提出とする。 (再提出に関する費用は無料とする。)	やむを得ず欠席した場合は、他の教室、クラスにて振替出席とする。もしくは、特別クラスを別日設定する。(振替授業の費用は、無料とする。)

ソ　研修の延期・中止等の不慮の事態における養成研修の継続及び苦情等に対する対応

(1) 延期の場合

研修が延期となった場合は、希望者には他クラスへのクラス変更を行う。

(2) 中止の場合

研修の中止で運営再開の見通しがない場合は、早急に同等の養成施設での受講を手配するか、もしくは、受講料を全額返金することとする。

(3) 苦情などに対する対応

電話、ファックス、郵送、または三幸福祉カレッジ事務所での苦情対応を行う。受付先は下記とする。

三幸福祉カレッジ

愛知県名古屋市西区名駅2-27-8　名古屋プライムセントラルタワー23F

TEL:052-589-9323　FAX:052-589-9328

タ　個人情報の取り扱いについて

受講生の個人情報に関しては講座の運営・案内のみの目的で使用し、その他の目的には使用しない。

チ　研修修了者名簿が知事に提出され、管理される旨の記載

研修修了者について、修了証書番号、修了年月日、氏名、生年月日、年齢、居住地等、必要事項を記載した「研修修了者名簿」を作成し、管理する。

また、作成した名簿については、富山県知事に送付され管理される。

ツ　本人確認について

通学講習初日において、本人確認を行う。本人確認については、下記のいずれかの方法とする。

・戸籍謄本、戸籍抄本若しくは住民票の提出

・住民基本台帳カードの提示
・在留カード等の提示
・資格確認書の提示
・運転免許証の提示
・パスポートの提示
・年金手帳の提示
・国家資格を有する者については、免許証又は登録証の提示
・マイナンバーカードの提示

テ　自宅学習添削

自宅学習課題提出日（別添日程表のとおり）までに課題が終了しない場合は、別クラスに振替することとする。

ト　受講の取消し

次の各号の一に該当する者は、受講を取消すことができる。

（１）意欲が著しく欠け、修了の見込みがないと認められる者
（２）学習研修の秩序を乱し、その他の受講生としての本分に反した者
（３）当校の定める受講料支払規定に反する者
（４）当研修をとおして介護者としての資質に著しく欠ける者
（５）その他講師の指示・当校の規定に反し、改善を求めても改めない者

（別紙2）

科目別講師一覧

講師氏名	担当科目
穴田真理子 大井広和 中山麻美子 笠間誠二 三浦真理	1、職務の理解 (1)多様なサービスの理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解
	2、介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護 (2)自立に向けた介護
	3、介護の基本 (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 (2)介護職の職業倫理 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント (4)介護職の安全
	5、介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション (2)介護におけるチームのコミュニケーション
	7、認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (4)家族への支援
	8、障害の理解 (3)家族の心理、かかわり支援の理解
	9、こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅰ基本知識の学習 Ⅱ生活支援技術の学習 Ⅲ生活支援技術の演習
	10、振り返り (1)振り返り (2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修

（別紙2）

科目別講師一覧

講師氏名	担当科目
佐藤恵子 矢田亨	1、職務の理解 (1)多様なサービスの理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解
	2、介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護 (2)自立に向けた介護
	3、介護の基本 (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 (2)介護職の職業倫理 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント (4)介護職の安全
	4、介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1)介護保険制度 (3)障害者自立支援制度およびその他制度
	5、介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション (2)介護におけるチームのコミュニケーション
	7、認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (4)家族への支援
	8、障害の理解 (3)家族の心理、かかわり支援の理解
	9、こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅰ基本知識の学習 Ⅱ生活支援技術の学習 Ⅲ生活支援技術の演習
	10、振り返り (1)振り返り (2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修

（別紙2）

科目別講師一覧

講師氏名	担当科目
坂上ひろみ 洞庭美由紀 武田　早紀	1、職務の理解 (1)多様なサービスの理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解
	2、介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護 (2)自立に向けた介護
	3、介護の基本 (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 (2)介護職の職業倫理 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント (4)介護職の安全
	4、介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (2)医療との連携とリハビリテーション
	5、介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション (2)介護におけるチームのコミュニケーション
	6、老化の理解 (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 (2)高齢者と健康
	7、認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況 (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (4)家族への支援
	8、障害の理解 (1)障害の基礎的理解 (2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (3)家族の心理、かかわり支援の理解
	9、こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅰ基本知識の学習 Ⅱ生活支援技術の学習 Ⅲ生活支援技術の演習
	10、振り返り (1)振り返り (2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修

（様式第3号）

研修カリキュラム（介護職員初任者研修）

1、カリキュラム

１．職務の理解（６時間）

＜ねらい＞
研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)多様なサービスの理解		3	介護保険サービス（居宅、施設）。介護保険外サービス。
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解		3	居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容。居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）。ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携。

２．介護における尊厳の保持・自立支援（９時間）

＜ねらい＞
介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

＜評価ポイント＞
・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)人権と尊厳を支える介護	4.5	1.5	(1) 人権と尊厳の保持・・・個人として尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護 (2) ICF・・・介護分野におけるICF (3) QOL・・・QOLの考え方、生活の質 (4) ノーマライゼーション・・・ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止・・・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要・・・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業
(2)自立に向けた介護	3		(1) 自立支援・・・自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性／個別ケア、重度化防止 (2) 介護予防・・・介護予防の考え方

３．介護の基本（６時間）

＜ねらい＞
・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

＜評価ポイント＞
・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携		1.5	(1) 介護環境の特徴の理解・・・訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性・・・重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多種職から成るチーム (3) 介護に関わる職種・・・異なる専門性を持つ多種職の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担
(2)介護職の職業倫理	1		(1) 職業倫理・・・専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	2		(1) 介護における安全の確保・・・事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策・・・リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、情報の共有 (3) 感染対策・・・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、「感染」に対する正しい知識
(4)介護職の安全		1.5	(1) 介護職の心身の健康管理・・・介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策

4．介護・福祉サービスの理解と医療との連携（９時間）

＜ねらい＞
介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの利用の流れ、各専門職の役割・責務ついて、その概要のポイントを列挙できる。

＜評価ポイント＞
・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
・介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。例：税が財源の半分であること、利用者負担割合
・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)介護保険制度	2.5	1.5	(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向・・・ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解・・・保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割・・・財政負担、指定介護サービス事業者の指定
(2)医療との連携とリハビリテーション	3		医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念
(3)障害者福祉制度およびその他制度	2		(1) 障害者福祉制度の理念・・・障害の概念、ICF（国際生活機能分類） (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解・・・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要・・・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業

５．介護におけるコミュニケーション技術（６時間）

＜ねらい＞
高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

＜評価ポイント＞
・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)介護におけるコミュニケーション		3	(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割・・・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション・・・言語的コミュニケーションの特徴、非言語コミュニケーションの特徴 (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際・・・利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際・・・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3		(1) 記録における情報の共有化・・・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、ヒヤリハット報告書、5W1H (2) 報告・・・報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境・・・会議、情報共有の場、役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、ケアカンファレンスの重要性

６．老化の理解（６時間）

＜ねらい＞
加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

＜評価ポイント＞
・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等
・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常		3	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴・・・防衛反応（反射）の変化、喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響・・・身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響
(2)高齢者と健康	3		(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点・・・骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点・・・循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、誤嚥性肺炎、症状の小さな変化に気付く視点、高齢者は感染症にかかりやすい

7．認知症の理解（６時間）

＜ねらい＞
介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

＜評価ポイント＞
・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること
・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)認知症を取り巻く状況	1		(1) 認知症ケアの理念・・・パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点（できることに着目する）
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1		(1) 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理・・・認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、治療、薬物療法、認知症に使用される薬
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		3	(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴・・・認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（BPSD）、不適切なケア、生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応・・・本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること、身体を通したコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケア
(4)家族への支援	1		認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）

8．障害の理解（３時間）

＜ねらい＞
障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

＜評価ポイント＞
・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容、特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)障害の基礎的理解	0.5		(1) 障害の概念とICF・・・ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーションの概念
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1		(1) 身体障害・・・視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害 (2) 知的障害・・・知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）・・・統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害
(3)家族の心理、かかわり支援の理解		1.5	(1) 家族への支援・・・障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減

９．こころとからだのしくみと生活支援技術（７５時間）

＜ねらい＞
・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

＜評価ポイント＞
・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。

・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。

・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。

・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。

・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。

・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。

・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

科目（細目）	研修時間内訳		具体的内容
	通信	通学	
(1)介護の基本的な考え方	3	1	理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	1.5	学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	1.5	人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点
(4)生活と家事		1	(1) 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援・・・生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観
(5)快適な居住環境整備と介護		1	(1) 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法・・・家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		6	(1) 整容に関する基礎知識、整容の支援技術・・・身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果
(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		10.5	(1) 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援・・・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の働きの理解、ボディメカニクスの基本原理、移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、褥瘡予防

(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		6	(1) 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援・・・食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防
(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		7	(1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法・・・羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清浄（臥床状態での方法）、足浴・手浴・洗髪
(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		9.5	(1) 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法・・・排泄とは、身体面（生理面）での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		6	(1) 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法・・・安眠のための介護の工夫、環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、安楽な姿勢・褥瘡予防
(12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護		3	(1) 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援・・・終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性
(13)介護過程の基礎的理解		6	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ
(14)総合生活支援技術演習		6	（事例による展開） 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1．5時間程度で上のサイクルを実施する） 事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施
10. 振り返り （４時間）			
＜ねらい＞ 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
(1)振り返り		3.5	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修		0.5	継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off－JT、OJT）を紹介

研修日程　　富山駅前教室10月生Qクラス

(1)　自宅学習に関する添削指導日程

自宅学習課題配布日　令和8年7月4日　　答案提出期限　令和8年11月3日

自宅学習課題	課題提出日	通信形式で実施する時間	科目番号	科目名（細目）
第1回 第3回	令和8年11月3日	4.5	2	介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護
		3	2	介護における尊厳の保持・自立支援 (2)自立に向けた介護
		1	3	介護の基本 (2)介護職の職業倫理
第1回		2	3	介護の基本 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント
第1回 第3回		2.5	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1)介護保険制度
		2	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (3)障害者総合支援制度およびその他制度
		3	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (2)医療との連携とリハビリテーション
第1回		3	5	介護におけるコミュニケーション技術 (2)介護におけるチームのコミュニケーション
第1回 第2回		3	6	老化の理解 (2)高齢者と健康
第2回		1	7	認知症の理解 (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
第２回 第３回		1	7	認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況
		1	7	認知症の理解 (4)家族への支援
		0.5	8	障害の理解 (1)障害の基礎的理解
		1	8	障害の理解 (2)障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援 (1)介護の基本的な考え方
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解

※通信形式で実施する時間欄は、別紙６の通信形式で実施できる上限時間内の時間数で設定すること。
※「10. 振り返り」までにすべての自宅学習課題を修了すること。
　また、再評価が必要な場合も想定し、余裕を持った添削スケジュールとすること。

(2) 通学講習日程

実施日		実質研修時間数	場所	科目名（細目）
10月26日(月)	9:30-10:30	1	三幸福祉カレッジ 富山駅前教室	オリエンテーション
	10:40-12:40	3		1．職務の理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解
	13:30-14:30			
	14:30-15:30	3		1．職務の理解 (1)多様なサービスの理解
	15:40-17:40			
10月27日(火)	9:30-11:00	1.5		2．介護における尊厳の保持・自立支援　(1)人権と尊厳を支える介護
	11:10-12:40	1.5		3．介護の基本　(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携
	13:30-15:00	1.5		3．介護の基本　(4)介護職の安全
	15:10-16:40	1.5		4．介護・福祉サービスの理解と医療との連携　(1)介護保険制度
10月29日(木)	9:30-11:00	3		6．老化の理解 (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常
	11:10-12:40			
	13:30-15:00	3		7．認知症の理解 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
	15:10-16:40			
11月2日(月)	9:30-11:30	3		5．介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション
	11:40-12:40			
	13:30-15:00	1.5		8．障害の理解　(3)家族の心理、関わり支援の理解
	15:10-16:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(1)介護の基本的な考え方
	16:10-17:40	1.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解
11月3日(火)	9:30-11:00	1.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解
	11:10-12:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(4)生活と家事
	12:10-13:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(5)快適な居住環境整備と介護
	14:00-15:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	15:10-17:10			
11月5日(木)	9:30ー11:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-14：40	3.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	14：50-16：05			
	16：15-17：20			
11月9日(月)	9:30-10：30	7		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10：40-13:10			
	14：00-15:00			
	15:10-17:40			
11月10日(火)	9:30-10：30	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10：40-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
11月12日(木)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
11月16日(月)	9:30-10:30	6.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10:40-13:10			
	14:00-15:30			
	15:40-17:10			
11月17日(火)	9:30-11:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護
	15:10-16:40			

(2) 通学講習日程

実施日		実質研修時間数	場所	科目名（細目）
11月19日(木)	9:30-11:00	7	三幸福祉カレッジ　富山駅前教室	9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-17:40			
11月23日(月)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (13)介護過程の基礎的理解
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
11月24日(火)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (14)総合生活支援技術演習
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
11月26日(木)	9:30-11:00	3.5		10．振り返り　(1)振り返り
	11:10-13:10			
	14:00-14:30	0.5		10．振り返り　(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修
	14:30-15:30	1		修了試験

研修日程　　富山駅前教室11月生Cクラス

(1)　自宅学習に関する添削指導日程

自宅学習課題配布日　令和8年7月4日　　答案提出期限　令和8年12月23日

自宅学習課題	課題提出日	通信形式で実施する時間	科目番号	科目名（細目）
第1回 第3回	令和8年12月23日	4.5	2	介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護
		3	2	介護における尊厳の保持・自立支援 (2)自立に向けた介護
		1	3	介護の基本 (2)介護職の職業倫理
第1回		2	3	介護の基本 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント
第1回 第3回		2.5	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1)介護保険制度
		2	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (3)障害者総合支援制度およびその他制度
		3	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (2)医療との連携とリハビリテーション
第1回		3	5	介護におけるコミュニケーション技術 (2)介護におけるチームのコミュニケーション
第1回 第2回		3	6	老化の理解 (2)高齢者と健康
第2回		1	7	認知症の理解 (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
第２回 第３回		1	7	認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況
		1	7	認知症の理解 (4)家族への支援
		0.5	8	障害の理解 (1)障害の基礎的理解
		1	8	障害の理解 (2)障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援 (1)介護の基本的な考え方
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解

※通信形式で実施する時間欄は、別紙６の通信形式で実施できる上限時間内の時間数で設定すること。
※「10. 振り返り」までにすべての自宅学習課題を修了すること。
　また、再評価が必要な場合も想定し、余裕を持った添削スケジュールとすること。

(2) 通学講習日程

実施日		実質研修時間数	場所	科目名（細目）
11月25日(水)	9:30-10:30	1	三幸福祉カレッジ 富山駅前教室	オリエンテーション
	10:40-12:40	3		1．職務の理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解
	13:30-14:30			
	14:30-15:30	3		1．職務の理解 (1)多様なサービスの理解
	15:40-17:40			
12月2日(水)	9:30-11:00	1.5		2．介護における尊厳の保持・自立支援　(1)人権と尊厳を支える介護
	11:10-12:40	1.5		3．介護の基本　(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携
	13:30-15:00	1.5		3．介護の基本　(4)介護職の安全
	15:10-16:40	1.5		4．介護・福祉サービスの理解と医療との連携　(1)介護保険制度
12月9日(水)	9:30-11:00	3		6．老化の理解 (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常
	11:10-12:40			
	13:30-15:00	3		7．認知症の理解 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
	15:10-16:40			
12月16日(水)	9:30-11:30	3		5．介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション
	11:40-12:40			
	13:30-15:00	1.5		8．障害の理解　(3)家族の心理、関わり支援の理解
	15:10-16:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(1)介護の基本的な考え方
	16:10-17:40	1.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解
12月23日(水)	9:30-11:00	1.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解
	11:10-12:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(4)生活と家事
	12:10-13:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(5)快適な居住環境整備と介護
	14:00-15:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	15:10-17:10			
1月6日(水)	9:30ー11:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-14：40	3.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	14：50-16：05			
	16：15-17：20			
1月13日(水)	9:30-10：30	7		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10：40-13:10			
	14：00-15:00			
	15:10-17:40			
1月20日(水)	9:30-10：30	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10：40-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
1月27日(水)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
2月3日(水)	9:30-10:30	6.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10:40-13:10			
	14:00-15:30			
	15:40-17:10			
2月10日(水)	9:30-11:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護
	15:10-16:40			

(2) 通学講習日程

実施日		実質研修時間数	場所	科目名（細目）
2月17日(水)	9:30-11:00	7	三幸福祉カレッジ　富山駅前教室	9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-17:40			
2月24日(水)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (13)介護過程の基礎的理解
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
3月3日(水)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (14)総合生活支援技術演習
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
3月10日(水)	9:30-11:00	3.5		10．振り返り　(1)振り返り
	11:10-13:10			
	14:00-14:30	0.5		10．振り返り　(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修
	14:30-15:30	1		修了試験

研修日程　　富山駅前教室2月生Qクラス

(1)　自宅学習に関する添削指導日程

自宅学習課題配布日　令和8年10月4日　　答案提出期限　令和9年3月2日

自宅学習課題	課題提出日	通信形式で実施する時間	科目番号	科目名（細目）
第1回 第3回	令和9年3月2日	4.5	2	介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護
		3	2	介護における尊厳の保持・自立支援 (2)自立に向けた介護
		1	3	介護の基本 (2)介護職の職業倫理
第1回		2	3	介護の基本 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント
第1回 第3回		2.5	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1)介護保険制度
		2	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (3)障害者総合支援制度およびその他制度
		3	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (2)医療との連携とリハビリテーション
第1回		3	5	介護におけるコミュニケーション技術 (2)介護におけるチームのコミュニケーション
第1回 第2回		3	6	老化の理解 (2)高齢者と健康
第2回		1	7	認知症の理解 (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
第２回 第３回		1	7	認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況
		1	7	認知症の理解 (4)家族への支援
		0.5	8	障害の理解 (1)障害の基礎的理解
		1	8	障害の理解 (2)障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援 (1)介護の基本的な考え方
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解
		3	9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解

※通信形式で実施する時間欄は、別紙６の通信形式で実施できる上限時間内の時間数で設定すること。
※「10. 振り返り」までにすべての自宅学習課題を修了すること。
　また、再評価が必要な場合も想定し、余裕を持った添削スケジュールとすること。

(2) 通学講習日程

実施日		実質研修時間数	場所	科目名（細目）
2月22日(月)	9:30-10:30	1	三幸福祉カレッジ 富山駅前教室	オリエンテーション
	10:40-12:40	3		1．職務の理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解
	13:30-14:30			
	14:30-15:30	3		1．職務の理解 (1)多様なサービスの理解
	15:40-17:40			
2月23日(火)	9:30-11:00	1.5		2．介護における尊厳の保持・自立支援　(1)人権と尊厳を支える介護
	11:10-12:40	1.5		3．介護の基本　(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携
	13:30-15:00	1.5		3．介護の基本　(4)介護職の安全
	15:10-16:40	1.5		4．介護・福祉サービスの理解と医療との連携　(1)介護保険制度
2月25日(木)	9:30-11:00	3		6．老化の理解 (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常
	11:10-12:40			
	13:30-15:00	3		7．認知症の理解 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
	15:10-16:40			
3月1日(月)	9:30-11:30	3		5．介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション
	11:40-12:40			
	13:30-15:00	1.5		8．障害の理解　(3)家族の心理、関わり支援の理解
	15:10-16:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(1)介護の基本的な考え方
	16:10-17:40	1.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解
3月2日(火)	9:30-11:00	1.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解
	11:10-12:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(4)生活と家事
	12:10-13:10	1		9．こころとからだのしくみと生活支援技術　(5)快適な居住環境整備と介護
	14:00-15:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	15:10-17:10			
3月4日(木)	9:30－11:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-14：40	3.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	14：50-16：05			
	16：15-17：20			
3月8日(月)	9:30-10：30	7		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10：40-13:10			
	14：00-15:00			
	15:10-17:40			
3月9日(火)	9:30-10：30	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10：40-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
3月11日(木)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
3月15日(月)	9:30-10:30	6.5		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	10:40-13:10			
	14:00-15:30			
	15:40-17:10			
3月16日(火)	9:30-11:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00	3		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護
	15:10-16:40			

(2) 通学講習日程

実施日		実質研修時間数	場所	科目名（細目）
3月18日(木)	9:30-11:00	7	三幸福祉カレッジ　富山駅前教室	9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-17:40			
3月22日(月)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (13)介護過程の基礎的理解
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
3月23日(火)	9:30-11:00	6		9．こころとからだのしくみと生活支援技術 (14)総合生活支援技術演習
	11:10-12:40			
	13:30-15:00			
	15:10-16:40			
3月25日(木)	9:30-11:00	3.5		10．振り返り　(1)振り返り
	11:10-13:10			
	14:00-14:30	0.5		10．振り返り　(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修
	14:30-15:30	1		修了試験

氏名	穴田　真理子		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		平成27年8月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成12年4月28日	厚生労働省
	名称	業務内容	期間
	介護施設	介護職	平成8年4月～平成26年1月
氏名	大井　広和		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		令和2年4月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成28年4月8日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	介護施設	介護職	平成24年4月～現在
氏名	中山　麻美子		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		令和2年9月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成14年4月26日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	介護施設	介護職	平成9年4月～平成15年12月
	介護施設	介護職	平成23年12月～平成24年11月
	介護施設	介護職	平成24年12月～平成29年7月
氏名	佐藤　恵子		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		令和3年4月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成23年4月15日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	介護施設	介護職	平成19年11月～平成20年8月
	介護施設	介護職	平成20年9月～平成21年9月
	児童発達支援･放課後等デイサービス	介護職	平成21年10月～平成23年10月
	介護施設	介護職	平成24年6月～現在
氏名	笠間　誠二		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		平成25年2月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成14年4月19日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	介護施設	介護職	平成11年4月～現在
氏名	矢田　亨		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		令和3年2月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成26年4月22日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	障害者支援施設	介護職	平成23年1月～現在
氏名	三浦　真理		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		令和8年4月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	介護福祉士	平成13年5月9日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	介護施設	介護職	平成13年6月～平成14年3月
	介護施設	介護職	平成14年4月～平成17年3月
	介護施設	介護職	平成17年4月～平成19年9月

氏名	坂上　ひろみ		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		平成28年4月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	看護師	昭和60年4月24日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	医療機関	看護職	昭和60年4月～平成10年3月
	医療機関	看護職	平成11年9月～平成28年4月
氏名	洞庭　美由紀		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		平成29年10月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	看護師	昭和60年5月20日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	医療機関	看護職	昭和60年4月～昭和63年3月
	医療機関	看護職	昭和63年12月～平成29年3月
氏名	武田　早紀		
現職	名称		開始年月
	日本教育クリエイト　非常勤講師		令和8年4月
資格	資格名	取得年月日	取得機関
	看護師	平成25年4月5日	厚生労働省
略歴	名称	業務内容	期間
	医療機関	看護職	平成25年4月～平成27年3月
	医療機関	看護職	平成27年4月～平成28年3月
	医療機関	看護職	平成28年4月～令和2年3月
	医療機関	看護職	令和6年5月～令和6年7月

自宅学習添削指導実施要領　　（別紙８）

通信課題の送付	お申込後テキスト一式および自宅学習課題を送付します。
通信課題の提出	自宅学習課題集に問題が第１回～第３回まであります。付属の解答用紙に記入の上、5 日目までにご提出下さい。 ※字数が制限されている記述式・論述式課題の問題が計８問あります。付属の記述式・論述式問題用解答用紙に記入の上、5 日目までにご提出ください。
最終提出期限	通学講習 5 日目まで ※再提出の締切は通学講習 11 日目となります。
基 準 点	70 点　※70 点未満は再提出
返　　却	採点後、授業内で返却する。
通信課題の終了	3 回の通信課題を提出し、すべての課題において基準点を満たした場合、自宅学習課題を終了したこととする。 ※修了試験前に自宅学習課題を終了すること。できなければ、修了試験を受けられなくなるので注意。

≪問題に関する質問について≫
ファックス・郵送にて問題に関する質問を受け付ける。
質問用紙に必要事項を記入の上、三幸福祉カレッジ　事務局までお送りいただく。
返答はファックス又は郵送で行い、質問用紙提出から回答までは約２週間を見込む。

質問用紙

氏名		受講 No.	
		FAX	
会場: 教室 月生 クラス			

課題集 に関する質問
質問
解答・解説
三幸福祉カレッジ FAX：076-255-2231 〒920-0065　石川県金沢市二ツ屋町 8-1　アーバンユースフルビル 2F 三幸福祉カレッジ　質問係

※コピーして、ご使用下さい。